

IgA腎症の病態解明と新規治療標的の探索

① アピールポイント



シングルセルシーケンスや機械学習など最新の研究手法を用いて、特に国内における末期腎不全主要原因疾患であるIgA腎症の新たな知見を探索しています

② 研究の出口のイメージ

研究で得られた成果をもとに、予後予測、新たな治療標的の発見、治療法の開発、既存の他疾患治療薬の転用の可能性などが期待されます。

助教
桐田 雄平

キーワード

IgA腎症, 慢性腎臓病

研究内容

IgA腎症は本邦における慢性透析療法導入の主要な原因の一つであり、免疫グロブリンの一つであるIgAが糸球体メサンギウム基質に沈着することにより発症する糸球体腎炎です。

扁桃、腸管などの粘膜免疫の関与が示唆されていますが、詳細なメカニズムについては明らかになっていません。また、現在行われている主な治療法はステロイドや免疫抑制剤による免疫抑制治療であり、特に本邦においては扁桃摘出とステロイドパルス療法を併せた治療により、血尿・蛋白尿および腎機能障害の進行を認めない「臨床的寛解」を目指すことが主流となってきています。しかし、重症度や治療反応性は多岐にわたり、寛解に至らない症例も少なくありません。そのため、IgA腎症の詳細な病態の解明や、新たな治療法の開発が期待されています。

そこで現在本教室では、IgA腎症の実際の患者様から得られた血液サンプルや腎生検組織をシングルセルシーケンスなどの最新の研究手法を用いて解析することにより、新たな病態の解明や、疾患重症度や治療反応性を規定する因子を探索しています。

